

ANIMAL CENTER NEWS

No . 17

目次

◆モニターラットにおける盲腸原虫の陽性確認とその後の対応に関して

◆3階 346号室にて発生したネズミアメーバの対応と今後の予定について

◆外部検証に向けた自己点検票の作成依頼

◆オートクレーブの新規設置

◆3階処置室の機器整備

◆SPF区域の拡大及び351飼育室352飼育室の飼育スペースの拡大工事を行いました

◆2020年度中四国動物実験施設連絡協議会に参加しました

◆不織布の原料不足によるセンター予防着の高騰に関して



(写真1) 日の出 高知県

◆モニターラットにおける盲腸原虫の陽性確認とその後の対応に関して

令和2年12月度の実験動物中央研究所における定期モニタリングにおいて、244飼育室のモニターラットから盲腸原虫陽性が確認されました。同室を利用されている先生方に速やかに通知を行った上で、一時的な他室の利用および動物持ち出しの禁止・再検査のための動物提供にご協力頂き、安楽死および薬剤投与（パモ酸ピランテル配合飼料の給餌、イベルメクチンの噴霧）による完全な駆虫作業に現在尽力しております。駆虫作業が終わり次第、再度検査を行い、陰性が確認されましたら飼育室を消毒し利用を再開させていただきますので、今後ともご理解とご協力の程よろしくお願ひ致します。

◆3階346号室にて発生したネズミアメーバの対応と今後の予定について

令和2年12月1日に実験動物中央研究所にてモニターマウスの定期検査を実施した結果、346飼育室において、ネズミアメーバの感染が確認されました。

その後、346飼育室のラックの各扉の動物にて追加検査を行い、アメーバ陽性の扉を特定し、12月下旬に陰性の扉の動物については352飼育室へ移動、陽性の扉の動物は1月初めに感染室へ移動いたしました。346飼育室については空室になった後に、部屋全体と全ラックをアルコール、弱酸性水、ヨードにて消毒し、モニターマウスを置いてアメーバの駆除ができたかどうかの確認をしております。モニターマウスは1月下旬に検査をする予定で、結果が陰性であれば、346飼育室を再稼働する予定です。アメーバ陽性だった動物は、クリーニングを開始しております。

◆外部検証に向けた自己点検票の作成依頼

我々は、本学における「動物実験に関する外部検証」の実施を計画しています（2回目）。その準備の一環として、皆様には昨年と同様に、「動物実験の自己点検票」と「実験動物飼養保管状況の自己点検票」を作成していただきたく存じます。この自己点検を通じて、適切に動物実験が実施されているか見直していただけたらと思います。近日中に、正式な依頼文書をメールにて送らせていただく予定です。何卒、ご協力の程よろしくお願ひいたします。

学内限定ホームページをご覧ください。

外部検証に向けた自己点検のお願い

<https://www.adres.ehime-u.ac.jp/bumon/04/limit/post-13.html>

◆オートクレーブの新規設置

約 30 年間、動物センターの清浄度維持に貢献したサクラ精機製のオートクレーブを廃棄し、三浦工業製のオートクレーブを動物センター洗浄室に新たに設置致しました。

新たなオートクレーブにも末永く稼働してもらえるよう、点検・整備に努めたいと思います。

◆3 階処置室の機器整備

324 処置室の麻酔器の利用が高頻度であるため、新たな吸入麻酔器を 322 処置室に導入することと致しました。また、322・324 処置室へ動物保温用ヒーターマット及びバリカンも配置致しますので、是非ご利用ください。1 月中に全ての物品が納品される予定です。



吸入麻酔器一式



バリカン



ヒーターマット

 株式会社 夏目製作所 Since 1946

TAIYO ELECTRONIC CO.,LTD.

(図 1) 3 階処置室の機器

◆SPF 区域の拡大及び 351 飼育室 352 飼育室の飼育スペースの拡大工事を行いました

3 階 SPF 区域の利用増加に伴う飼育可能数不足解消のため、今まで高度 SPF 区域だった 351 飼育室及び 352 飼育室前廊下に扉を設置し、2 部屋を SPF 区域に変更しました。また、351 飼育室及び 352 飼育室の前室を撤去し、AP 型ラックを各室 5 台設置可能なスペースを確保いたしました。以前高度 SPF エリアを隔てていた扉は空調の関係で残しましたが、現在は常時開錠状態となっており、自由に往来ができるようになりました。また、直接 SPF 区域に通じている X 線照射装置室の北側扉は緊急時以外使用禁止といたしました。

現在、352 飼育室には、クリーンラック（1 ラック当たり 35 ケージ収容可能）を 5 台設置しており、351 飼育室は、早ければ年度内に AP 型ラックを 4 台設置する予定です。352 飼育室も、今後 AP 型ラックへの変更を予定しております。

◆2020年度中四国動物実験施設連絡協議会に参加しました

令和2年12月11日(金)、岡山大学鹿田キャンパス旧生化学棟講堂で開催された2020年度中四国動物実験施設連絡協議会にオンライン(Zoom)にて参加しました。特別講演では手指消毒に効果があると注目されている次亜塩素酸水溶液に関する講演が行われ、同液のウイルスに対する有効性と使用上の注意点について学び、今後当センターの運営を進めていく上で必要不可欠な知識・技術的ノウハウを習得しました。また、フリーディスカッションでは「愛媛大学動物実験部門における新型コロナウイルス感染症への対応」と題した発表を行い、フリーディスカッションを通じて各大学の対応例について具体的に学び、最新の情報や感染予防に有益な知識を習得しました。今回得られた有用な知識を今後の施設運営・業務遂行に活用して参ります。

◆不織布の原料不足によるセンター予防着の高騰に関して

当センターではキャップ・マスク・ガウン・シューカバーを着用しての入館を義務付けており、コロナ禍において特に緊急事態宣言中はこれらの在庫不足・納期遅延が深刻となり、代替品での代用や先を見越した在庫確保を心がけ、利用者の皆様にご迷惑がかからないよう尽力して参りました。現在その状況は改善したものの、価格の高騰が深刻となり、皆様方に頂いている入館料だけでは賄えない状況が続いております。この状態では当部門の持ち出し額が高額になってしまうため、大学にお願いしてとりあえずは緊急支援により、当分の間はしのげる目処はつきましたが、今後も現状が続くようであれば、利用料の値上げも検討しなければなりません。これに関しては当部門としてもより安価な代用品を探す等の対策を行って参りますので、皆様におかれましてはマスク1人1日1枚の使用と効率的な入館によるその他の予防着使用数の削減にご協力の程よろしくお願い致します。